山手線外回り、大崎―池袋間で運休 7日始発から2日間

#東京

2023/1/5 17:13 (2023/1/6 22:11 更新)

JR東日本は渋谷駅で山手線の線路を移設して外回りと内回りのホームを一体化する工事に伴い、7日始発から8日終電までの丸2日間、渋谷を挟む外回りの大崎―池袋間を運休する。線路切り替えによる山手線の運転見合わせでは、2021年10月の渋谷駅工事と並び同社発足後最長。約53万人に影響すると見込まれる。

渋谷駅と周辺の再開発の一環。JR東は6日、工事前の内回りホームを報道陣に公開した。一部がフェンスで仕切られ、資材や工具が積まれていた。工事後はホームが最大約3メートル拡幅される。現在の外回りホームは廃止し、将来的に完全撤去する。

工事中のJR渋谷駅山手線の新たな外回りホーム（6日午前）=共同

工事中、山手線の運休区間を並行して走る埼京線とりんかい線の新木場―赤羽間を増発。さらに埼京線・湘南新宿ラインの線路を利用して大崎―新宿間で臨時列車を運行する。地下鉄や私鉄への振り替え輸送の利用も呼びかけている。

運休区間以外の外回りは日中の運転本数を通常の3～4割に減らし、10分に1本程度の間隔とする。内回りは約7割に減らす。9日始発からは平常通り運転する。

隣を走る埼京線のホームと高さをそろえる工事や、コンコースの整備なども今後実施し、再開発の全体の完成は27年度となる。〔共同〕

【関連記事】

・東急「脱・鉄道」、コロナで加速 渋谷再開発に傾注

・23年の首都圏、広域鉄道網が完成 大型都市開発も続々

・忠犬ハチ公がつなぐ縁 生誕100年、地域・時代を超えて

ニューズレター